

学力調査等の状況	
【全国学力・学習状況調査】経年比較してみると、全国平均との差に年々近づいてきていて、全体的に向上傾向が見られる。	
【国語】本校の正答率65%(昨年度より9%向上)都平均との差…昨年度-11%→今年度-4%、全国平均との差…昨年度-7.2%→今年度-2.2%	
【算数】本校の正答率59%(昨年度より3%向上)都平均との差…昨年度-11%→今年度-8%、全国平均との差…昨年度-7.2%→今年度-3.7%	

見えてきた課題	
国語では、特に「書くこと」では目的に応じて、要約したり、自分の考えを述べる内容に課題が見られる。「書きたい」という思いを引き出す導入の工夫(相手意識をもたせる等)書けるようにするための手だて(書き出しやモデル文の提示等)書いてよかったと思える手だて(書いた後の交流、よさを伝え合う等)を意識して指導する。算数では、特に三角形等の面積を求める公式や、その公式にある言葉の意味の理解に課題がある。面積の公式が成り立つ理由を考える活動を丁寧に扱い、ICT機器を用いて視覚的に捉えさせるために、デジタル教科書を活用していく。	

授業をデザインする8つの取組について	
ICT機器の活用	・G suite for Educationの協働編集機能を活用し、深い学びの定着を図る。 ・一人一台のタブレット端末や学習コンテンツを活用し、学習習慣の定着を図る。
見通しをもたせる導入	・単元名、学習の流れ、学習のめあてを明示する。 ・単元を貫く学習課題、児童の興味・関心を高める「学習問題(課題)」及び「仮説(予想+理由)」を立てさせる。
振り返りの設定	・授業の後半に振り返りをする時間を設定する。 ・全学級共通の「学習感想の書き方」という掲示物を作成し、同じ観点で書けるようにする。

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
国語科	<ul style="list-style-type: none"> 教科横断的な視点で、言語活動に取り組んだり、国語辞典を積極的に利用したりして、言葉に対する意識や語彙力を高め、言語力の育成を図る。 読書月間の設定や地域サークルによる全学級での読み聞かせを通して、読書活動を推進し、言語力を高めるとともに、調査活動の目的に合った資料の見つけ方を通して情報選択活用力を伸ばす。 	<ul style="list-style-type: none"> 語彙を増やすために、定期的読み聞かせを行ったり、読書の時間を積極的に取り入れたりしながら、言葉の意味を視覚的に捉えられるようにする。 ひらがな、カタカナ、漢字指導では、言葉集めを取り入れることで、語彙を増やす。 生活科における調べ学習の際、資料の見つけ方・活用の仕方を事前に確認し、学校図書館を積極的に活用していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 語彙を増やすために、学校図書館から国語辞典を学級前に据え置き、児童が自主的に使用できる環境をつくる。 定期的に読み聞かせを行ったり、図書の時間を積極的に取り入れたりすることで、語彙力の向上と言語力の育成を目指す。 総合的な学習の時間における調べ学習の際、資料の見つけ方・活用の仕方・情報モラルについて事前に確認し、学校図書館を積極的に活用していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 語彙を増やすために、国語科を中心に各教科・領域の時間の中で国語辞典を活用できるように指導する。 定期的に読み聞かせを行ったり、図書の時間を積極的に取り入れたりすることで、語彙力の向上と言語力の育成を目指す。 総合的な学習の時間における調べ学習の際、資料の見つけ方・活用の仕方・情報モラルについて事前に確認し、学校図書館を積極的に活用していく。
社会科	<ul style="list-style-type: none"> 社会的事象を調べた事実だけではなく、そこから意味や願いを様々な立場や広い視野から考える力を養う。 資料の中から必要な情報を得るために課題提示や教材の工夫を行う。 単元の終末には学習したことを基に、地域社会の一員としての自覚をもって、自分にできることをSDGsカードに記入する。 	<p>(中学年からスタートに向けて現時点で意識する指導の重点)</p> <ul style="list-style-type: none"> 身近な地域の様子を学習から気付きを通して、社会的事象の見方・考え方の基礎を養う。 いろいろな形式を体験しながら、発表の方法を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域における社会的事象をもとに学習を展開することで、社会で起きていることを自分事として捉えることで生活者としての視点をもって学習に取り組ませ、視野を広げる。 タブレット端末や学習コンテンツを活用し、地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて考え、表現する力を養う。 SDGsの掲示を活用し、学習とSDGsとの関連を意識付けを習慣化していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会的事象を具体的に調査するとともに、G suite for Educationの協働編集機能を活用し、社会的事象の意味をより広い視野から考え、表現する力を養う。 SDGsの掲示を活用し、学習とSDGsとの関連を意識付けを習慣化していく。
算数科	<ul style="list-style-type: none"> 東京ベーシックドリルで前学年の学習を振り返り、基礎的・基本的な知識・技能を身に付ける。 問題文を読み、図などをかいて、具体的な場面をイメージできるようにする。 「振り返りの時間」を確保し、自分の言葉で本時の学習について振り返ることで、主体的に課題解決できる姿勢をのびし、より深い学びにつなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> 算数モジュールや補習の時間では、前学年の学習や関連する単元の復習を、東京ベーシックドリルで扱い、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。 問題文に印を付けて、大事な数値やキーワードに着目し、立式できるようにする。全学年統一した指導を行うことで、更なる定着を図る。 「振り返りの時間」を確保し、本時の学習について振り返られるように、記号や定型文を用いて、自分の考えを主体的に考えられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 算数モジュールや補習の時間では、前学年の学習や関連する単元の復習を、東京ベーシックドリルで扱い、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。 3年生に関しては、授業の導入で九九やわり算に取り組む。 問題文に印を付けて、大事な数値やキーワードに着目し、線分図や数直線の図をかいてから立式するようにする。また必要に応じて、図に言葉も書き込む。全学年統一した指導を行うことで、更なる定着を図る。 「振り返りの時間」を確保し、自分の言葉で本時の学習について振り返られるように、全学年共通の定型文を用い、主体的に考えられるようにする。 デジタル教科書を活用し、視覚的に理解できるようにする。特に、図形を扱う学習では、公式の成り立ちをICT機器を用いて視覚的に捉えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 算数モジュールや補習の時間では、前学年の学習や関連する単元の復習を、東京ベーシックドリルで扱い、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。 問題文に印を付けて、大事な数値やキーワードに着目し、線分図や数直線の図をかいてから立式するようにする。また必要に応じて、図に言葉も書き込む。全学年統一した指導を行うことで、更なる定着を図る。 「振り返りの時間」を確保し、自分の言葉で本時の学習について振り返られるように、全学年共通の定型文を用い、主体的に考えられるようにする。 デジタル教科書を活用し、視覚的に理解できるようにする。特に、面積を求める学習では、公式の成り立ちをICT機器を用いて視覚的に捉えられるようにする。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活の中的事象例や具体物などの身近な題材を取り上げたり、前の時間に学んだ内容を結び付けたりすることで学習の見通しをもたせる。 理科の「予想→実験→予想の見直し→考察→新たな課題」の展開を通して、知的な楽しさを触れさせる。 ガラス器具や薬品、火を使用する単元では、場の設定や道具の扱い方の指導を確実にし、安全で安心な授業を実施する。 	<p>(中学年からスタートに向けて現時点で意識する指導の重点)</p> <ul style="list-style-type: none"> 単元の見通しをもたせるために身近な題材を取り上げること、学習の流れを捉えること。 ICT機器を活用することで、自身の考えや学習へ取り組む意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元の見通しから学習の流れをつかみ、予想や仮説などの課題意識をもたせることで興味や関心を高める。 ICT機器を活用し、自身の考えを共有させることで対話的な学びができるようにする。 本時の学習を振り返らせ、次時の学習への主体的な学びを促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元の見通しから学習の流れをつかませ、予想や仮説などから児童から内発的動機付けが高まる。 ICT機器を活用し、視覚的な情報にすることで整理しやすくなる。また、互いの考えを共有させたり、共同作業に取り組んだりすることで対話的な学びができるようにする。 本時の学習を振り返らせ、自分の考えを再構築するきっかけとし、身近な事象と結び付け、深い学びができるようにする。

⑮-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
生活科	<ul style="list-style-type: none"> ・スタートカリキュラムを通して、就学前教育を生かした適切な指導・支援を行う。 ・学習の終わりには、振り返りをカードにまとめたり、クラス内で話し合ったりするなど、自分なりに考え、表現できるようにする。 ・学習内容に合わせて、事前に初めて扱う道具の使い方や、屋外学習での歩き方を事前に安全指導を確実に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「見つける」、「比べる」、「たとえる」、「試す」、「見通す」、「工夫する」などの多様な学習活動を行うことで、新たな気付きを生み出せるようにする。 ・具体的な活動や体験で気付いたことを多様な方法で伝え合い表現する学習活動を行うことで学びを振り返り、気付きの質を高めてそれを表現できるようにする。 		
音楽科	<ul style="list-style-type: none"> ・演奏する楽しさを味わわせる基礎となる能力を身に付けさせるため、個別の練習時間を毎時間確保し、個人→グループ→全体の中で音に思いを込めて表現できるようにする。 ・題材のねらいに応じて、新しい曲との合わせ方を工夫をし、学習への見通しをもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な学習の定着を目指し、継続的に鍵盤ハーモニカ運指の復習時間や階名唱の時間を設ける。歌唱や器楽共にペア学習やグループ学習など協働的な活動に取り組む中で音楽活動の楽しさを感じられるようにする。 ・題材ごとに曲それぞれのめあてを明確に示し、曲や演奏の楽しさを見出しながら、表現に対して思いをもてるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な学習の定着を目指し、継続的にコーダー運指の復習時間や発声練習の時間を設ける。 ・歌唱、器楽共に協働的な活動を取り入れ、児童同士が進んで関わり合う中で自分の表現をできるようにする。 ・ICT機器を活用し、実技指導や鑑賞の内容を視覚的に提示・指導をする。 ・題材ごとに曲それぞれのめあてを明確に示す。曲ごとに明確な目標をもたせ、学期末にめあてに沿った振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な学習の定着を目指し、継続的にコーダー運指の復習時間や発声練習の時間を設ける。 ・歌唱、器楽共にグループ活動などの協働的な活動を取り入れ児童がより主体的な関わり合いの中で自分の表現をできるようにする。 ・ICT機器を活用し、実技指導や鑑賞の内容を視覚的に提示・指導をする。 ・題材ごとに曲それぞれのめあてを明確に示す。曲ごとに明確な目標をもたせ、学期末にめあてに沿った振り返りを行う。
図工科	<ul style="list-style-type: none"> ・よく考えながら自分の表現を見つけ、つくり出す喜びを味わうことができるよう、様々な素材や用具に触れさせたり、題材を工夫したりする。 ・適宜、振り返りを取り入れ、学びを実感させる。 ・自分や友達、様々なものよさを感じ取りながら自分の見方や感じ方を広げ、深められるよう鑑賞の時間を充実させる。 ・刃物等を使用する題材では場の設定や道具の扱い方の指導を確実にし、安全で安心な授業を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な材料や用具に触れられる題材を工夫し、意欲的に取り組めるようにする。 ・振り返りでは鑑賞の時間を設け、自分ができたこと共に、友達の作品のよさなども感じられるようにする。 ・導線を考慮した場の設定などにより、安全に活動が行えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な材料や用具に触れられる題材を工夫する。さらに、実物投影機やクロームブックなどのICT機器を活用した視覚的な導入を実践することで、見通しをもって意欲的に取り組めるようにする。 ・振り返りでは鑑賞の時間を設け、自分や友達の作品のよさや工夫を感じ取り、互いに認め合う態度を育てる。 ・刃物を使用する題材では、安全指導を徹底し、導線を考慮した場の設定などにより、安全に活動が行えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な材料や用具に触れられる題材を工夫する。さらに、実物投影機やクロームブックなどのICT機器を活用した視覚的な導入を実践することで、見通しをもって意欲的に取り組めるようにする。 ・振り返りでは鑑賞の時間を設け、自分や友達の作品のよさや工夫を認め合い、自己の作品づくりに生かせるようにする。 ・刃物を使用する題材では、安全指導を徹底し、導線を考慮した場の設定などにより、安全に活動が行えるようにする。
家庭科	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の技能が確実に身に付くように、大型提示装置やChromebook等を活用し視覚的に理解しやすい環境を整える。 ・家庭や地域で生かすための視点をもたせるように課題の提示の仕方を工夫する。 ・日常生活の中から児童自身が問題を見いだして課題を設定し、自らの実生活を振り返りながら児童自身がSDGsカードにできることを記入する。 ・刃物や火、ガスを使用する題材では場の設定や道具の扱い方の指導を確実にし、安全で安心な授業を実施する。 			<ul style="list-style-type: none"> ・G suite for Educationの協働編集機能を活用して意見交換させることで、実生活に結びつく深い学びとなるようにする。 ・単元名、学習の流れ、学習のめあてを明示し、授業の後半には振り返りの時間を設定することで、学習の定着を図る。 ・実物投影機などのICT機器を活用しながら視覚的に理解させることで、技能を確実に身に付けさせる。
体育科	<ul style="list-style-type: none"> ・体力向上推進プランに基づいた授業改善、また、安全な体育の指導のために、教員研修会を設定し、指導法の伝達を行う。 ・生涯体育を目指し、休み時間の外遊びを推進したり、縄跳びや持久走の取組期間を設定したりして持久力の定着を図る。 ・ICT機器を活用し、手本となる動きや練習方法を動画で提示したり、自分の試技を撮影したりして、シェアリングや振り返り、自己評価、課題設定等に生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲や技能を高めるウォーミングアップを取り入れる。また、教員研修会等で、楽しく安全に運動に取り組ませる方法についての技能を高める。 ・休み時間の外遊びの推進のほか、縄跳びや持久走等の取り組み期間内に集会等を設定し、楽しみながら持久力の定着を図る。 ・毎時間の振り返りで、ICT機器を活用し、次の時間への意欲をもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲や技能を高めるウォーミングアップを取り入れる。また、教員研修会等で、楽しく安全に運動に取り組ませる方法についての技能を高める。 ・休み時間の外遊びの推進のほか、縄跳びや持久走等の取り組み期間内に集会等を設定していく。 ・ICT機器を活用した授業を推進し、児童自身が自己の課題を把握し、運動を工夫したり、自己評価などができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲や技能を高めるウォーミングアップを取り入れる。また、教員研修会等で、楽しく安全に運動に取り組ませる方法や、主体的に運動を工夫させる技能を高める。 ・休み時間の外遊びの推進のほか、縄跳びや持久走等の取り組み期間内に集会等を設定し、主体的に持久力の定着を図れるようにしていく。 ・ICT機器を活用した授業を推進し、児童自身が自己の課題を把握、シェアリング、振り返り、自己評価などの一連の活動ができるようにする。
外国語科	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の流れとめあてを明確にすることで、学習への見通しをもたせる。 ・ICT機器を用いて、毎時間デジタル教材の音声聞かせたり、アクティビティを取り入れたりして、身に付けるべき知識や技能の定着を図る。 			<ul style="list-style-type: none"> ・慣れ親しんできた簡単な単語や表現を音声面で十分に復習してからスピーチ原稿を作成し、児童が自信をもってスピーチできるように配慮する。 ・ICT機器を用いて、毎時間デジタル教材の音声聞かせたり、アクティビティを取り入れたりして、身に付けるべき技能の定着を図る。 ・授業の後半に振り返りをする時間を設定する。

⑮-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

各教科における課題を改善するための指導の重点							
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年			
総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> 導入時に見通しをもたせるために、具体的な課題や取り組み例を提示して、学習計画を立て、毎時間の振り返りを元に次時以降で大切にしたい視点をもたせる。 SDGsの視点をもった活動を継続して行うことで、身近な地域から市、日本、世界へと学習の視野を広げ自分にできることを考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 提示された課題を基に自分の課題を見付け、ICTを活用した情報収集をしたり、課題を解決するための方法を考え、実行したりする活動を通して、学んだことを次の課題解決に生かし、自分の生活に関連付けて振り返ることができるようにする。 何かを変えられるという実感をもつために、身の回りの出来事を自分事として考えられる視点をもたせ、SDGsに取り組み外部組織と連携しながら課題解決をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分なりに課題を見付け、社会や自分の生活につながる課題を見出し、解決方法を検討させながら、個別に課題を絞り課題解決学習を進めさせる。 学習した内容や解決方法を日常の課題解決に生かせるように、ICTを活用して調べた情報をまとめたり、学んだことを今後の自分や社会と関連付けたりして振り返りをさせる。 何かを変えられるという実感をもつために、身の回りの出来事を自分事として考えられる視点をもたせ、SDGsに取り組み外部組織と連携しながら課題解決をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手の立場や気持ちを考えて心のこもった接し方ができるようにする。道徳だけでなく特別活動の授業も含め、月に1回以上自他のよさを認められるようにする。 SDGsカードを活用して内容項目とSDGsとの関連を意識付け、友達や家族、学校のために行動することのよさを感じられるようにする。 自己を振り返る時間には、これまでの自分の経験を振り返るよう指導し、内容項目を自分事として捉えられるようにする。 道徳授業地区公開講座などで、地域や保護者に参加していただき、学校・家庭・地域における道徳教育のあり方やその連携について相互の理解を深めていく。 			
					<ul style="list-style-type: none"> 授業参観で道徳の授業を行うことなどきっかけづくりをして、家庭でも、道徳的価値について子供と一緒に話し合うように呼びかけ、地域や保護者と連携して道徳教育の充実を図る。 学年の内容項目を適切に指導・評価し、自己の生き方について考えられるように、ワークシートやSDGsカードを活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 時と場合に応じた挨拶や言葉遣いを身に付けさせる。道徳だけでなく特別活動の授業も含め、月に1回以上自他のよさを認められるようにする。 SDGsカードを活用して内容項目とSDGsとの関連を意識付け、友達や家族のために行動することのよさを感じられるようにする。 自己を振り返る時間には、これまでの自分の経験を振り返るよう指導し、内容項目を自分事として捉えられるようにする。 道徳授業地区公開講座などで、地域や保護者に参加していただき、学校・家庭・地域における道徳教育のあり方やその連携について相互の理解を深めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 誰に対しても真心をもって接することができるようにする。道徳だけでなく特別活動の授業も含め、月に1回以上自他のよさを認められるようにする。 SDGsカードを活用して内容項目とSDGsとの関連を意識付け、友達や家族、学校のために行動することのよさを感じられるようにする。 自己を振り返る時間には、これまでの自分の経験を振り返るよう指導し、内容項目を自分事として捉えられるようにする。 道徳授業地区公開講座などで、地域や保護者に参加していただき、学校・家庭・地域における道徳教育のあり方やその連携について相互の理解を深めていく。
					<ul style="list-style-type: none"> 話し合い活動では、活動や対話の「見える化」を図り、自他を認め合い、自分の成長を実感させる学級活動の充実を図ることで、合意形成する力を育成する。 児童会活動、クラブ活動、縦割り班活動を通し、互いに尊重し協力、より良い関係を築こうとする力や課題対応力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 話し合い活動の流れを決め、見通しをもって話し合い活動ができるようにする。 終末の振り返りでは、自他のよさを認め合ったり、教師から価値付けたりする時間を設け、次時の活動への意欲付や、自己肯定感を高められるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いから実践までの一連の流れの中で、個人が活躍できる場やよさを認め合う場を設定する。 黒板を見て、話し合いの流れが分かるように、出た意見を、比較・分類・関連付けしながら示していく。
<ul style="list-style-type: none"> ICT機器を用いて、毎時間デジタル教材の音声を開かせたり、アクティビティを取り入れたりして、身に付けるべき知識や技能の定着を図る。 外国語の背景にある文化に対する理解を深める。(SDGs) 	<ul style="list-style-type: none"> アクティビティでは、ペアトークを取り入れて、積極的に話す・聞く場面を設ける。 外国語の背景に対する理解を深めて(SDGs)、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする気もちをもたせる。 授業の後半に振り返りをする時間を設定する。 ICT機器を活用することで学習へ取り組み意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> アクティビティでは、ペアトークを取り入れて、積極的に話す・聞く場面を設ける。 外国語の背景に対する理解を深めて(SDGs)、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする気もちをもたせる。 授業の後半に振り返りをする時間を設定する。 ICT機器を活用することで学習へ取り組み意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> アクティビティでは、ペアトークを取り入れて、積極的に話す・聞く場面を設ける。 外国語の背景に対する理解を深めて(SDGs)、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする気もちをもたせる。 授業の後半に振り返りをする時間を設定する。 ICT機器を活用することで学習へ取り組み意欲を高める。 				